

JCM制度の活用 ～ケソン市 (フィリピン) の学校へのソー ラーエネルギー導入に向けて～

川崎国際エコビジネスフォーラム

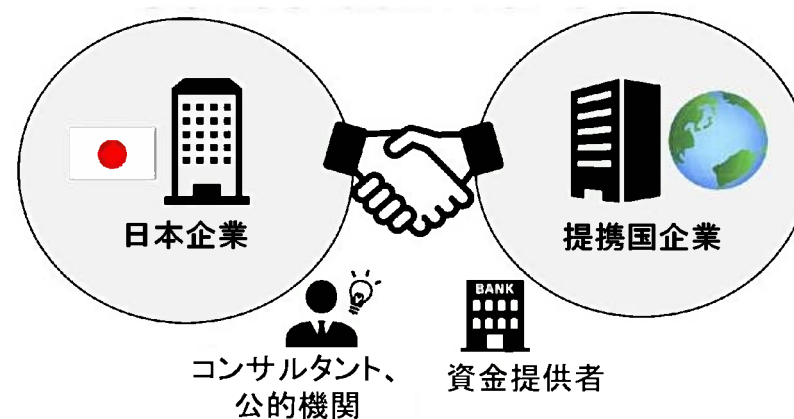
カルッツ川崎 1階大会議室

2024年11月13日

JCMを機能させる上での 重要事項

- ✓ プロジェクトの特定
二国間の協力による共創を通じ、発展途上国でエネルギー関連の温室効果ガス排出量の削減につなげる
- ✓ パートナーの選定
JCM担当者
経験のある企業
- ✓ コンソーシアムの設立
現地EPC協力者を任命する
- ✓ チームとスケジュールの管理

JCMのための コンソーシアム

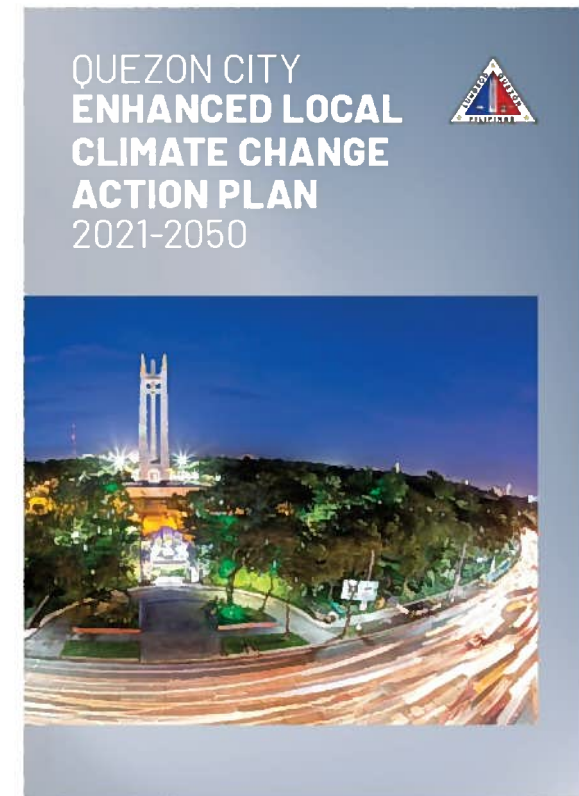


JCMプロジェクト事例

フィリピン・ケソン市の学校へソーラー発電を導入

150校のうち**50校**を10の社会経済的および技術的基準に基づいて選定 (地域ごとに約8校)

- ✓ エネルギーと排出削減の予備分析が完了
- ✓ **2025年までに実施予定**
- ✓ 重要な課題: プロジェクト費用を賄うための資金が不足している



ケソン市の50校にソーラーエネルギーを導入 コモンウェルス高校で導入に成功

- 380枚のハイブリッドソーラーパネル、20台のインバーター、160個のバッテリーを5棟の建物に設置
- 余剰エネルギーはバッテリーに蓄電
- 年間146,000 kWhを生成
→ 電気料金を削減し、停電時のエネルギー需要を補う
- 大気汚染を低減
→ 年間88.07トンのCO2削減が見込まれている
- 教育用実験室として使用
→ 学生のカリキュラムに組み込む



ケソン市の50校にソーラーエネルギーを導入 排出削減と共益

	関連データ
年間再生可能エネルギー発電量*	2,473 MWH
排出係数**	0.507 MWH/CO2
CO2削減トン (15年間)**	18,807
CO2削減トン (20年間)**	25,076
PM2.5削減キロ (15年間)***	2027
PM 2.5削減キロ (20年間)***	2666
障害調整生存年 (DALY) の軽減 (15年間)****	33
障害調整生存年 (DALY) の軽減 (20年間)****	44

*C40より(推計エネルギー転用にに基づく): <https://cff-prod.s3.amazonaws.com/storage/files/8FFtvehSbwSsaBW51loBPVRieJAYZHjf5PZMWDqg.pdf>


**ルソン・ピサヤ地域の電力網の排出係数 (JCM手法PH_AM002に基づく): <https://www.jcm.go.jp/ph-jp/methodologies/111>

***承認されたJCM手法PH_AM002に基づく (<https://www.jcm.go.jp/ph-jp/methodologies/111>)

または生成されたエネルギー量 × 排出係数 × 年数

****九州大学が開発した再生可能エネルギーの共益モデルに基づく

ケソン市の50校にソーラーエネルギーを導入 2024年11月現在の組成

 **Ministry of the Environment**
Government of Japan

 **Global Environment Centre
Foundation**

 **JCM** THE JOINT CREDITING
MECHANISM

潜在的な資金提供者



IGES
Institute for Global
Environmental Strategies

JCM提案へ
の技術情報
を提供

コンソーシアム

AG Asian
Gateway

JCM代表

TRI ENERGY
TECHNOLOGY PHILIPPINES

EPC (技術、調達、建造)
運用と保守管理

スイス
チャレンジ



貸出



50校



エリック・ザスマン zusman@iges.or.jp
マユコ・オノ m-ono@iges.or.jp

